

湖北省の概況

2025年12月作成

(1) 基本データ

◆湖北省について



省都	武漢市
面積	18.59 万km ²
常住人口	5,838 万人 (2023 年)
地級行政区	12 個 (うち、武漢市は副省級市)
書記	王忠林 (おう・りゅうりん) ※略歴は後述
省長	李殿勛 (り・でんくん) ※略歴は後述

<気候>

気候は夏が最も長く、冬が最も短い。省内の平均気温は 15～17 度である。最も寒い 1 月の平均気温は 2～4 度で、最も暑い 7 月の山岳地帯を除く平均気温は、27～29 度である。

<歴史：武昌蜂起>

湖北省の中で、最も重要な歴史的な事件といえば、辛亥革命のきっかけになった武昌蜂起だろう。ここでは、この事件の概要を説明する。

◆背景

1901 年、清朝政府は義和団事件の終結に際して、列強と北京議定書（辛丑和約）を締結した。その中には、4 億 5000 万両（テール）の賠償金を 1940 年までに分割して支払う項目があり、清朝政府はこの金額の捻出に苦労していた。

義和団事件後、列強が中国国内で自国の勢力圏をうまく繋ぐべく、鉄道への投資を盛んに行っていた。ここに目を付けた当時の実業家である盛宣懐（せい・せんかい）が、中国国内の鉄道（幹線鉄道）をすべて国有化し、それを列強に売却することで、賠償金を捻出することを提案し、清朝政府に採用された。

◆事件前夜

鉄道国有化に対し、とりわけ四川省や広東省などの資本家は激しく抵抗した。この運動は「保路運動」と呼ばれ、各地に広がっていった。これを受け、政府側は四川省などに兵を派遣することになった。

当時、武漢では文学社と共進会という 2 つの革命グループが、蜂起にむけた準備をすすめていた。しかし、ささいなことでその計画が政府側に漏れてしまい、多くの逮捕者を出し、うち 3 名は処刑された。

◆事件の経過

10 月 10 日夜、革命軍はついに決起する。政府の関連施設に大砲を打ち込み、警備隊を攻撃するなど、激しい戦闘が繰り広げられた。結果、総督や軍幹部は逃げ出し、翌日の正午には革命家が武昌全域を手中に収めた。その後、革命軍は軍政府を設立し、黎元洪（れい・げんこう）をトップに置き、湖北省の漢口や漢陽にも進軍し、他省にも蜂起を呼び掛けた。この動きが他省に広がっていく過程から「辛亥革命」と呼ぶ。

一方の清朝政府は、北洋軍閥の袁世凱（えん・せいがい）に助けを求め、袁を武昌に

派遣する。しかし、袁は政府を裏切り、まず漢口と漢陽を奪回したのちに、攻撃を停止し、独自に革命軍と交渉を開始した。12月29日、上海で孫文が中華民国大總統に選出され、2月12日に溥儀が退位し、清国は滅亡した。

<行政区>

湖北省には12つの地級行政区があり、そのうち武漢市は大幅な自主権が与えられる副省級市である。

	市名称	よみ	一言メモ
1	武漢市	ぶかん-し	人口は1,381万人で、中部最大の都市。
2	鄂州市	がくしゅう-し	「武昌」と「鄂州」は過去に地名を何度も交換
3	黄冈市	こうこう-し	最も東に位置し、安徽省などと境目を接する
4	黄石市	こうせき-し	境目を接する江西省の鉄道が走る。
5	荊門市	けいもん-し	省の中心に位置する
6	荊州市	けいしゅう-し	荊州古城は国家歴史文化名城
7	十堰市	じゅうえん-し	観光名所「武当山」がある
8	随州市	ずいしゅう-し	王朝の「隋」はこの地に由来する
9	襄陽市	じょうよう-し	長江最大支流「漢水」の重要な内陸河川港
10	咸寧市	かんねい-し	湖北省有数のリゾート地
11	孝感市	こうかん-し	父の葬式費用のために身売りをした話に由来 ¹
12	宜昌市	ぎしゅう-し	三峡ダムがある

(2) 経済概況

2023年、湖北省の域内総生産（GRP）は約5兆5,804億元（前年比+6.0%）、一人当たり平均のGRPは、9万5,538元である。第1～3次産業の中では第3次産業が半分以上を占める。

項目	湖北省 ※カッコ内は前年比
域内総生産 (GRP)	5兆5,803億6,300万元 (+6.0%) 第1次産業：5,073億元 (+4.1%) 第2次産業：2兆216億元 (+4.9%)

¹ 親孝行という単語からも推測できるが、中国語の「孝」は親孝行の意味である。

	第3次産業：3兆515億元（+7.0%）
1人当たりGRP	9万5,538元（+5.9%）
1人当たり可処分所得	35,146元（+6.8%） 都市住民：44,990元（+5.5%） 農村住民：21,293元（+8.0%）
実質外資利用額	27.28億ドル（+3.1%）
輸出入総額	6,449億7,000万元（+5.8%） 輸出総額：4,333億元（+4.7%） 輸入総額：2,116億元（+7.9%）
貨物取扱量	8,594億2,400万トンキロ ² （+13.9%）
旅客輸送量	1,027億8,400万人キロ（+90.9%）

◆交通インフラ

鉄道：京広線、京九線、武九鉄路、襄渝線、漢丹線、焦柳線、長荆線、宜万鉄路、渝利鉄路がある。高速鉄道は、京広高鉄、漢丹高鉄、漢宜旅客専用線などがある。

道路：すべての県や市を結んでおり、一般道はおよそ30.8万km、高速道路はおよそ7,849kmに達する。

空港：全国10大空港のひとつで、中部最大の空港である武漢天河国際空港がある。日本とは東京（成田）や大阪（関空）に直行便が就航している（2025年12月時点）。このほか、鄂州市では2022年8月に中国初の貨物輸送専用ハブ空港である鄂州花湖国際空港が開港した。

◆日系企業の進出状況³

数多くの大手企業が武漢を中心に進出しており、ホンダ、日本製鉄、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、豊田通商、イオン、岩谷産業、ダイキン、全日本空輸、スターツ、小糸製作所（以上、順不同）などが現地法人を持っている。また、武漢日本商工会には、2025年12月現在144社が会員企業となっている。

² 物流用語。トンキロとは、貨物の輸送量を表す単位のこと、貨物の重量（トン数）にそれぞれの貨物の輸送距離（キロメートル）を乗じて算出する。

³ 武漢日本商工会の公式サイトにある情報をもとに作成

◆湖北省に本社がある中国の有名企業

＜東風汽車集団有限公司＞

中国の3大国有自動車メーカーで、本社が武漢市にある。日本企業との関係では、日産自動車や本田技研工業とそれぞれ合併会社を設立している。

＜武漢鋼鉄（集団）公司＞（現在は宝武鋼鉄集団傘下に）

中国第3位の国有鉄鋼会社。日本製鉄が2011年にプリキを製造・販売する合併会社を設立した⁴。なお、同社は2016年に宝鋼集団（上海市）に吸収合併され、現在は宝武鋼鉄集団の傘下企業になっている。

（3）その他情報

1. 日本の友好都市・姉妹都市

	日本の都市	湖北省の都市	締結年月日
1	大分県大分市	武漢市	1979年9月7日
2	大分県豊後大野市	武漢市花山鎮	1980年9月7日
3	愛知県犬山市	襄陽市	1983年3月13日
4	福島県会津若松市	荊州市	1991年6月15日
5	新潟県三条市	鄂州市	1994年4月28日
6	大分県豊後大野市	荊州市荊州区	1994年9月26日
7	福島県二本松市	京山県	1994年10月16日
8	岐阜県関市	黄石市	1997年12月1日
9	長崎県	湖北省	2011年10月10日

2. 湖北省の名所

・黄鶴楼（こうかくろう）

省都武漢市随一の景勝地。長江ほとりに位置する楼閣で、三国志の時代に呉の孫権が建てた見張り台をルーツに持つ。現在の楼閣は1985年に再建されたもの。くると曲がった屋根が特徴



⁴ プレスリリース：https://www.nipponsteel.com/news/old_nsc/detail/index.html?rec_id=4335

で、これが鶴が飛び立つ形に見えることから黄鶴楼という名前が付いたとされている。

・神農架（しんのうか）

中国で唯一「林区」という行政区に属する。国の自然保護区で、世界自然遺産にも登録されている。写真が物語る大自然ゆえ、野人伝説や孫悟空のモデルになった猿が生息するなど、私たちにとって、未知の世界が広がっている。

・武当山（ぶとうさん）

道教の山で、武当拳発祥の地である。一度は元に建築群を破壊され、明の時代に再建されたという、当時の元の領土の広さを物語るエピソードも残っている。1994年に、世界文化遺産に登録された。



・明顕陵（みんけんりょう）

明の時代の皇帝陵墓は、そのほとんどが北京の「明十三陵」にあるが、ここは例外である。ここは、第12代皇帝嘉靖帝（かせいてい）の父・興献王の墓である。実は、嘉靖帝は叔父である第11代皇帝正徳帝に跡継ぎがいなかったことから、皇位を継承した。しかし、その際に、形式上正徳帝が父であるということにしなければいけなかったが、嘉靖帝はこれを拒否し、「大礼の議」という論争の末、実父の興献王を「興献帝（その後、献皇帝に改名）」とし、正式に先代の皇帝という扱いになった。ここには、嘉靖帝の父（興献帝）と母が埋葬されている。一つの陵墓に2つの家系が埋葬されるのは歴史上、明顕陵のみで、世界文化遺産にも登録されている。

・三峡ダム

国共内戦や文化大革命などを乗り越え、長年の構想が2009年によく完成した。中国語が「三峡水電站」であることから、ここでは水力発電がおこなわれており、世界最大の水力発電ダムである。



おまけ：武昌蜂起の場所は、今どうなっているのか？

武昌蜂起が始まった場所は「起義門（きぎもん）」と呼ばれている。もともと古城の中の

「中和門」という名前だったが、1912 年（武昌蜂起の翌年）に改名された。現在は、左の写真の門があるが、これは 2011 年に武漢市人民政府が当時の城壁をもとに復元したものである。最近になるまで残存する城壁の中の街並みは、「得勝橋（旧名称：武勝門正街）」という場所のみで、ここを中心とする街並みは 600 年以上もの歴史があった。しかし、そんな得勝橋も、2016 年に取り壊しが始まり、人々は住まいを追われた。神農架や武当山といった場所は、人里離れた大自然で、国に保護されているが、人々と共存する建築は、徐々に現代化という渦に飲み込まれ、姿を消している。



(5) 湖北省指導者の略歴

王忠林（おう・ちゅうりん）書記

生年月日 : 1962年8月（63歳）
出身地 : 山東省臨沂市
最終学歴 : 中国海洋大学 農業経済管理学博士
民族 : 漢族

<主な略歴>

期間	役職
2011.11 - 2011.12	山東省棗莊市委常委
2011.12 - 2013.03	山東省聊城市委副書記
2013.03 - 2015.07	山東省聊城市委副書記、市長
2015.07 - 2016.11	山東省発展・改革委員会主任
2016.11 - 2017.04	山東省済南市委副書記、代理市長
2017.04 - 2018.05	山東省済南市委副書記、市長
2018.05 - 2020.02	山東省委常委、済南市委書記
2020.02 - 2021.04	湖北省委常委、武漢市委書記
2021.04 - 2021.05	湖北省委副書記、省政府党組書記
2021.05 - 2024.12	湖北省委副書記、省長（副省長、代理省長を経て）
2024.12 - 2025.01	湖北省委書記、省長
2025.01 - 現在	湖北省委書記、省人大常委会主任、省軍区党委第一書記 第20期中央委員

李殿勛（り・でんくん）省長

生年月日 : 1967年11月（58歳）
出身地 : 河南省駐馬店市
最終学歴 : 華東師範大学歴史学学士
民族 : 漢族

<主な略歴>

期間	役職
2015.02 - 2016.12	重慶市科学技術委員会主任、重慶市委科技工作委員会委員
2016.12 - 2018.01	重慶市委科技工作委員会書記、重慶市科学技術委員会主任
2018.01 - 2018.03	重慶市人民政府副市長、市委科技工作委員会書記、 市科学技術委員会主任
2018.03 - 2019.05	重慶市人民政府副市長
2019.05 - 2021.12	湖南省委常委、政法委書記
2021.12 - 2023.08	湖南省委常委、常務副省長、党組副書記
2023.08 - 2023.09	湖南省委副書記、常務副省長、党組副書記
2023.09 - 2024.12	湖南省委副書記
2024.12 - 2025.01	湖北省委副書記、省政府党組書記
2025.01 - 現在	湖北省委副書記、省長、党組書記、第 20 期中央候補委員